

消息

退職に付き御挨拶

元講師 高橋清 七

新緑の候上田蠶絲専門學校同窓會々員諸君が御奮闘せられつゝあるは、邦家のため、盛衰の至りに存じ御祝ひ申上ます。回顧して見まするゝ私は、幸福なる時代に生れ出しました。茶釜が土瓶となり、急須も變り、それにコーヒー、紅茶、コ、ア等も複雑になり、夜間の照明には種油の行燈も蠟燭の外なく、山間地にては『ヒデ』と稱し脂松を焚いて居つたのが『カンテラ』となり、洋燈となり、都會は瓦斯燈となり、現今は都鄙共に電燈となりました。其の他、政治に教育に、交通に、産業に悉く夢にも想はれぬ大改革が行はれました。

蠶業界にも大なる變化のありし事は諸君も御承知の如く、明治十年前後までは蠶の飼育法等も各地方に依り各特異の育蠶法が行はれました。私の郷里等では、稚蠶の初期桑花育で一齡の盛食期以後剝桑育が普通であつた。明治二十年頃から全三十五年頃迄の間に於て、一葉摘細剝の少量多回教育に統一せられたのである。

私が上田に就任しましたのは明治四十五年の四月でしたが、其前後より現今までの間に於て蠶絲業界には特筆大書すべき大變異があつた。第一に、蠶品種の改良問題が高唱せられ其結果、國にも府縣にも原蠶種製造所が新設せられ、後に蠶業試験場も看板を塗り換えた。第二に蠶品種の大改革が實行せらるゝに至つた。即ち従來の純日本系が日支又は支

歐等の交雜種となつた。之等は蠶種家の智識の上に、又技術の上に最大の變化を齎したものであつた。次には全盛を極めた夏秋蠶生種が、冷蔵種に變じ更に人工孵化種(主として鹽酸浸漬の)萬能の時代となつた。第四には夏秋蠶特に晩秋蠶の飼育が盛となり其の結果として、熊本鼠、一之瀬等の桑種が殆ど全國的に普及栽培せらるゝ事となつた。第五には飼育法の變遷である。全國的に統一せられた普通育は、全芽育、剝桑育、條桑育、等經濟的飼育法に變じ、更に甚だしき粗放的飼育法となり大正の後年よりは從來想像も及ばぬ様な各種の特殊飼育法が唱導せられ、且それを實行せらるゝ時代となつたのである。其の他繭の取引上に、乾繭に、繰絲法に、生絲の格付に、養蠶組合に、飼育法指導團體の出現に、蠶種の取引關係等はその主なるものである。此の他、從來無きものが生れ又は改善せられたるものは數ふるに遑がない程であつた、隨てこの間に於ける蠶業の上に於ける智識技術共に、從來の轍は遠く距離を生ずるに至つた事は云ふまでもない。又一面之に伴ふ苦痛と愉快とが多かつたのである。

以上の如き大改革の主なるものは、私の就任中の十六七年間であります。此の過渡期に際會し元來無智の私にはその職責を全ふすこと、能はざるは勿論であつたが、校長先生初め諸先生の懇篤なる御指導と、同窓會員各位の御庇護、に依り小過は澤山ありましたが、幸大過なく今日在らしめたるは、全く各位の御援助の賜で、これが私の幸福なる所以であります。今回御暇を載くに際し、茲に回顧の一端を述べ、御芳情を感謝し、御挨拶に代へる次第であります。

(昭和三年四月)